

7月になりました！ あと少しで 夏休み！

【あじさい週間 読み聞かせ】



あっという間に、7月になりました。平成28年度1学期もあと3週間で終わり、子どもたち待望の夏休みになります。かけ足のように通り過ぎていこうとしている1学期に、やるべきことができたでしょうか？まだだという子は、残り3週間とにかく頑張ってみましょう。あきらめることは簡単にできますが、残りわずかの期間を真剣に取り組むことができれば、2学期の活動に、かならずつながっていくと思います。



「読書体験」を ぜひとも 時間がある夏休みに。

萩山小学校では、「あじさい読書週間」として6月21日から7月1日まで、朝の時間に読み聞かせを聴いています。また、「波の会」の方々にもおはなし会をしていただきました。人はその人だけの体験しかできません。どうか「読書体験」をふやし、心豊かな人生がおくれるといいかなと思っています。比較的自由な夏休みは、いい機会だと確信しています。



【波の会 読み聞かせ 4年】

「校長掲示コーナー」をつくりました！



写真 左：児童玄関の「校長掲示コーナー」
右：校長室入り口 「俳句」掲示ボード



今 なぜ「俳句」なのか？

萩山小では、今後いろんな機会をとらえて俳句を詠んでもらおうかなと考えています。前任校でも、子どもたちに詠んでもらいました。

校長先生は、「国語」が専門の先生です。中学校で国語を教えている期間の方が長かったですね。

そこで、学力のいちばんの土台となる「言葉の力を育てる」ことを目的に、俳句を詠んでもらおうと思っています。見たこと、感じたことを言葉にする。そのとき、「五・七・五と季語」という俳句の絶対的なルールの中で、あれこれ考える。勝手に考えられないのがポイントですね。そうするとどの言葉がふさわしいのか検討がなされ、やがて言葉が俳句らしくなり、さらに検討が重ねられ、俳句として形をなしてくる。よく見直して自分の言葉になっているか確認をする。こうして俳句は、できあがっていきます。この一連の作業の中で子どもたちは、言葉と真正面に向き合うことができます。すごく大切な時間だと思いませんか。

実を言うと、べつに、作文でも詩でもいいわけですが、俳句は、「世界でも短い詩」であることよき、現代のわれわれの生活から少なくなっていく季節感が必要だというよきがあるので、俳句を言葉と向き合う方法として、みんなで詠んでいこうと思います。毎月詠む俳句ぐらひは、毎月きちんと校長先生にだしてほしいものです。家庭でも話題にさせていただけるとありがたいです。

子どもたちの俳句を詠む参考になればと思い、この通信の表面の下の方の写真にあるように児童玄関のつきあたりに校長掲示コーナーを作りました。ご来校時に、見ていただければと思います。季節感のあるもの、俳句の資料、子ども達の参加した行事の写真等、少しでも俳句作りのヒントになればという思いで、掲示がしてあります。



6月の「俳句」(校長選句) ■■■■■

今月から萩山小のみなさんに、毎月校長先生から「俳句を詠む」という宿題を出しています。6月の季語は、〈例 梅雨 つゆ あじさい 田植え つばめ 青葉 夏〉でした。

初めての提出で戸惑った子もいたと思いますが、素直に情景が読めており、感心しました。毎月、いくつかの俳句を「校長選句」として紹介していこうと思います。選句の基準は、校長先生がきにいったものです。

〈みんなの作品〉

ぱちぱちと	しずかなおとで	おちてくる	(1 年)
ながいつゆ	くもがたくさん	やってくる	(2 年)
日ようび	雨でつまらん	ゲームやる	(3 年)
あじさいが	かべいちめん	に そまるあさ	(4 年)
寒さあり	季節感ずる	梅雨の朝	(5 年)
ひくくとぶ	つばめをみたら	きぶんおち	(6 年)
ドロドロの	土きもちいい	田植えです	(6 年)